

# 医学系研究に関する情報公開および研究協力をお願い

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	High flow nasal cannula を使用した呼吸不全患者の臨床的検討
研究責任者	隷浜松病院 呼吸器内科 中村秀範
研究実施体制	研究責任施設： 聖隷浜松病院 呼吸器内科
研究期間	2018年 10月 1日 ～ 2021年 9月 30日
対象者	2016年1月～2017年12月までに呼吸器内科において HFNC が使用された患者
研究の意義・目的	High flow nasal cannula (HFNC) は、鼻腔内に高流量の酸素空気混合ガスを投与する高流量酸素療法であり、単なる高流量酸素投与法の域を超えたさまざまな生理学的効果を持ち、呼吸不全の病態改善をはかる治療法で臨床的にも有用性が高い(1)。HFNC の有用性はこれまで主に I 型呼吸不全 (I 型呼吸不全) や抜管後の症例を対象として報告されており、通常酸素療法や非侵襲性陽圧換気 (NPPV) と比較して酸素化の改善や QOL 改善に寄与し、忍容性が高いことが示されている(2-5)。本邦における HFNC 使用の実態調査では、急性呼吸不全のみならず緩和治療などの慢性呼吸不全患者に対しても広く用いられていることが報告されたが(6)、疾患別の有用性や臨床像に関しては未だ十分には検討されていない。そこで、本研究では、当院呼吸器内科において使用された HFNC の実態を調査し、原因疾患や原因病態別解析を含め、実臨床における HFNC の有用性を検討することを目的とした。
研究の方法	研究デザイン 後方視的観察研究 方法 対象患者について、診療録から以下の項目の調査を行い、臨床像および予後因子に関して統計ソフト(JMP®)を用いて解析する。 年齢、性別、喫煙歴、BMI、HFNC を要した病態(急性呼吸不全、抜管後、慢性呼吸不全など)、原因疾患、HFNC 前後の血液検査(PaO <sub>2</sub> 、PaCO <sub>2</sub> 、P/F 比)、HFNC 前後の酸素療法、HFNC 継続可否、有害事象、予後
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。

問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 呼吸器内科 (氏名) 河野 雅人 TEL:053-474-2222(代表) 呼吸器内科外来 9:00~17:00 平日
---------	---